

歴史の重みと 伝えることの大切さ

新得町

町長 浜田 正利



新得町郷土研究会創立三十周年を迎えられましたことに心よりお慶び申し上げます。また、常日頃からの地道な活動には心から敬意を表するところであります。

このたび、三十周年記念誌であります会報「郷土」六号の刊行にあたりあいさつの機会をいただきましたことにまずはお礼申し上げます。

さて、町長就任以後、仕事から新得町の歴史の勉強が必要になることが多々あり、「新得町史」をめくることが増え、読むたびに先人の方々の物事を成し遂げてきたエネルギーのすごさに驚く事しばしばでした。

しかし、限られた紙面のなかでの事実の記載であり、内容によっては「何故、どうして？心の中は？」など新たな疑問と若干の物足りなさを感じるとともに、もっと深く知りたいと思いつつもそのままだ時間だけが過ぎてきたことが多々ありました。そんな中で、郷土研究会が発刊した「しんとくの史跡」などの存在をふと思い出し、少しでも物足りなさを解消できないかと何度か読んだことを思い出したところです。

この機会に発刊されている刊行物に再度目を通してみようと思ひ立ち、読み直して改めて気付いたこともたくさんあり、また恥ずかしいことですが私自身知らないこともたいへん多く記載されおり勉強させていただきました。あわせて写真の中にはたくさんの方々の懐かしい顔、風景があり、目でも楽しませていただいたところです。

先人の方々の生活は、なにもない中で家族と一緒に暮らしていくために並々ならぬ苦闘の日々、郷土発展に尽くしてきた生きた証が見え、歴史の重みを実感したところです。また、その証を後世に伝える研究会会員の使命感が強く伝わってきました。

今、この地で生活するものとして先人の方に感謝するとともに、我々の立場でも次代を担う人たちに伝えていくことの大切さを痛感したところです。なお、刊行本は自分にとって新得の歴史を知る上での貴重な参考書とでもいえる存在になっており、感謝しております。

最後になりますが、野呂顧問、片桐顧問、安倍会長はじめ役員、会員の方々の強い想いが今後も次世代に伝えられ、会としての存在感がますます高まることと、皆様のご健勝をご祈念申し上げます。発刊のお祝いいたします。